



徳嶺勝信

アジア含め世界中で感染拡大してきたコロナウイルス。26日付のVNエクスプレス英字版によると、ベトナム首相令により感染が拡大している国と地域からの入国制限追加国に、日本も追加するよう外務省に指示を出したという。ただ、いつから実施されるかは明確になっていない。

27日時点でのベトナムでの陽性者数は16人。14日以降、新規感染は報告されていない。政府は26日、感染者は全員治癒し、感染者はなしと発表した。ただ経過観察者は100人規模おり、まだまだ予断は許さない状況である。

ベトナム政府の対応は早く、旧正月明けの2月初旬には中国、香港、マカオからの中国人及び14日以内にこの地域に渡航・経由した外国人も入国を制限した。空港では外国人の体温をチェックし、発熱がある場合の入国を拒否するなど、厳しい検疫を行っている。感染者が多く出たハノイ近郊の1万人規模の村も封鎖し徹底的な水際対策を取っており、国内では

今生かすSARSの教訓

ベトナム

接客業のマスク着用や消毒等、早い段階での予防取り組みがされた。筆者事務所があるコンドミアムでも、入館時の体温測定や、消毒液の設置、掲示板やエレベーター内での予防告知などさまざまな対策が取られている。

小中高大学、インターナショナルスクール、各種専門学校を含む、主要都市の学校も旧正月明けの開校が2月末まで延長され、休校している。結果、おのずと予防意識が強化され人ごみに行かない、集団で集まらないなど注意した行動がとれているように思う。

なぜベトナムはこのような動きができたのか。2003年に流行した重症急性呼吸器症候群(SARS)で、院内感染で多くの医療従事者を失った苦い経験があるからだ。未知のウイルスに関しての教訓が今に生きている。ちなみに、SARSの感染拡大を最も早く制御したのもベトナムである。

国の指導もあるが民間含め国民が自発的に予防に取り組んでいる事もある。ある意味、海外特有の自己責任、自分の身は自分で守る事が原則として意識の中にある。現在、日本でも感染拡大が始まっているが、一人一人が自分の身は自分で守る事を意識し備えてほしい。

(VINACOMPASS代表)

今回は、県ソウル事務所の平安常幸所長です。